

2025年度

第2回
学校関係者評価委員会報告書

於：令和8年2月
学校法人長野県理容美容学園
松本理容美容専門学校

第2回学校関係者評価委員会 報告書

日時：令和8年2月20日（金）13：30～15：30

場所：松本理容美容専門学校 校長室

出席者：今井物産株式会社 代表取締役 五味先生

株式会社アーク 代表 竹松先生

小原校長・桐山事務局長・小口教務主任

○小原校長より

年度末の報告をふまえ、来年度に向けてより良い学校になるため忌憚ないご意見を沢山出して頂きたい。

来年度は改革の年である。新しい取り組みとして学校教育法改定による単位制への移行と、専門士の在り方の変更について説明していく。

【議題】

1. 令和7年度第2回自己評価委員会報告

令和7年度報告として、教育理念の2項目・学校運営の3項目・教育活動の4項目・学修成果の3項目・学生支援4項目・教育環境の1項目・学生募集と受け入れ2項目・法令等の順守1項目・社会貢献の1項目について、評価4について継続的に向上した部分の報告と今後の対策について細かく説明を行い、対策方法等について意見交換を行った。

評価4を、今まで以上により内容の濃いものにしていく必要がある。

各項目一つずつ細かく評価できていることが、次へと繋がっていくのでは。今後第三者評価という形式になった場合においても、大丈夫な体制が整っているのでは。

公平な評価を今後も継続していくべきである。

（基準1）令和8年度4月施行となる、教育法の一部改正に伴う「単位制」導入等の学則変更を含めた準備を進めた。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

・問題なし。継続して行ってほしい。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

・素晴らしい教育理念である。引き続き魅力ある学校にして行ってほしい。

今後の改善方策

・成績管理・出欠席管理としてデータ化導入準備を行っている。

（基準2）令和8年度4月より施行となる、文科省「学校教育法の一部改正」に関する学則変更手続きを行った。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

・資格取得として、時代に合った内容にしていくべきである。ヘアケアマイスター取得は必要である。

カラーやパーマ技術をやる上で、毛髪理論は大事な部分である。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

・資格取得をさせる際、サロン現場で生きる内容だと、伝えていくとより良いのでは。

今後の改善方策

・今後も在校生満足度に重点をおき、魅力ある学校づくりに力を入れていく。

・教員不足である。協力お願いしたい。

(基準3)

- ・令和7年度1月、各学年において学生へのアンケートを実施した。個々の不満や意向を読み取ることで、今後の個別指導、クラス指導に活用させていく。
- ・令和7年度の取り組み全般の振り返りとして、職員の自己評価アンケートを実施した。職員組織としての強みと弱点を明確化して、結果を基にして令和8年度の目標設定に反映するように促している。
- ・令和7年度3月学園研修では、学生管理システム導入に関する研修会を計画している。
- ・令和8年度4月より施行となる、文科省「学校教育法の一部改正」に関して令和8年度入学生より新たな「専門士」に関わる教科単位制の導入を行う。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・問題なし。継続して行ってほしい。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・学校支援サロン用のチラシを作成し、サロン向け勉強会を実施していても良いのでは。サロンに周知させることが出来れば、開かれた学校になっていくのでは。ディラーも上手く活用して行ってほしい。

今後の改善方策

- ・職員の振り返りをし、次の課題に気づき質の高い教育内容にしていきたい。技術を見る目がある人材を育成していく。
- ・資格取得に対して積極的である。合格率が好成績であった要因として、教え合うチームワークが構築できている。

(基準4)

- ・令和7年度第52回理容師美容師国家試験結果（通信生）
美容科受験者14名 不合格者0名 合格率100% 理容習得者課程 受験者2名 不合格者0 合格率100%
- ・令和7年度休学、退学者人数（令和8年1月末現在）
休学者 美容科1年生1名 退学者 美容科1年生5名 BB科1名 2年生BB科1名
進路変更、体調不良が主たる要因となっている。
- ・令和7年度教育センター社員校229校の就職状況アンケート結果として
1年後の理美容退職者18.2% 3年後の理美容退職者33.9%

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・理美容業界の離職率を払拭したい。離職をしても他業種に行かない点をアピールしても良いのでは。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・フリーランス化が目につく傾向である。またシェアハウス形態も増加している。SNS等で他サロンスタッフをヘッドハンティングしている。
- ・生徒との距離が近く、常に寄り添っていることは、マツビの良い特徴である。先生と生徒の関係性はすばらしい。寄り添っている学校である。

今後の改善方策

- ・学修成果が大事な部分である。合格率のみを求めるのも大事だが、受け入れた学生を大事に育て、社会で生き抜ける学生にしていきたい。
- ・担任のみでなく、学校全体でフォロー体制ができている。
- ・就職部として、就職した後の在り方についても説明していきたい。

(基準5)

- ・令和7年度1月現在
 - ① 「給付型奨学金」1年生23名、2年生6名、計29名-14.9%
 - ② 「学生支援機構奨学金」1年生27名、2年生28名、計55名-28.2%
 - ③ 「多子世帯奨学金(暫定)」1年生19名、2年生19名、計38名-16.9%
- ・学校校医「塩原医院」により令和8年度2年生を対象とした「健康診断」を行うための準備を進めている。
- ・2学期始業式をスポーツ大会として、クラス、学年の交流を促し2学期に向けての前向きな意識を共有できた。
- ・令和7年度第17回全国理容美容甲子園大会 フォトコンテスト部門優秀賞1名
- ・第18回全国エステティックコンテスト 応用部門入賞1名 基本部門入賞1名
- ・職業実践専門課程に関する授業の講師として、卒業生の講師依頼を推進している。引き続き、卒業生の教職員希望者を募り、新規教員確保につなげていく。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・コンテスト希望者は多いのか?→年々減少傾向である。やる気はあるが練習はやりたくない学生に対しての指導が難しい。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・ワインディング練習において、1000本巻きは、継続力をつけるため有効である。上手くなった経験を与えてあげることが大切である。またはチーム分けして競い合う練習もやっても良いのでは。

今後の改善方策

- ・コンテスト参加について、指導する側も工夫をして参加する意味を伝えていきたい。
- ・今後も在校生満足度に重点をおき、委員の先生方のご意見を参考に、魅力ある学校づくりに力を入れていく。

(基準6) 令和8年度より学生管理システムの導入に向けた準備を進めている

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

今後の改善方策

- ・今後も引き続き、在校生満足度を一番に考え、工夫していきたい。

(基準7) 総括: 令和8年度学生募集について、松本校においては厳しい結果となった。

要因: 大学・短大進学率の向上

県外への流出

少子化の影響

伝統校としての手厚い教育は引き続き、本校の魅力である。そのためには教員数の充実も含め、より魅力ある学校にしていく必要がある。

令和3年度入学者数	美容科101名	理容科2名	ビューティビジネス科15名	合計118名
令和4年度入学者数	美容科93名	理容科7名	ビューティビジネス科15名	合計115名
令和5年度入学者数	美容科86名	理容科9名	ビューティビジネス科13名	合計108名
令和6年度入学者数	美容科78名	理容科6名	ビューティビジネス科9名	合計93名
令和7年度入学者数	美容科93名	理容科16名	ビューティビジネス科11名	合計120名
令和8年度入学予定数	美容科80名	理容科6名	ビューティビジネス科11名	合計97名

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・学生募集について、少子化であるため、大変な部分もあると思うが、前向きに努力して頂き安心している。素晴らしい学校である。入口から卒業まで。また、卒業後のサポート体制が整っている学校である。特色を活かして、引き続き頑張ってほしい。協力はしていく。
- ・マツビのアットホームな雰囲気は魅力であり、強みである。大切にしていってほしい。
- ・就職ガイダンスの時に、学校パンフレットやチラシをサロンに配布しても良いのでは。サロンを巻き込んでも良いのでは。

- ・独立は減少傾向である。生涯年収という考え方が大事である。
卒業後、フリーランスにならないために、社会人リカレント教育も必要な時代である。
- ・就職先として、学校教員やディラーも含めても良いのでは。
- ・引き続き学生募集についてなんでも協力します。講習会の会場として学校をもっと上手く活用していくと卒業生もありがたいのでは。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・サロン業界も巻き込むことで学生募集につながるのでは。また、インターネットを活用したアピールは効果的です。学校の魅力発信としてサロン現場もいくらかでも協力します。
- ・今後個人経営のサロンが増えていく。フリーランスも含め。業界の良さやチーム力をもっと知ってほしい。今まで以上に学校と業界の協力体制を強化していくべきである。

今後の改善方法

- ・美容師としての職業の価値を向上していくため、学校と業界の連携を引き続き行っていきたい。
- ・学校の特色をきちんと伝えられるような広報活動をしていく。委員の先生方から頂いた意見を参考にし、前向きな方策を検討していく。
- ・男子学生が減少傾向である。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

(基準9) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

(基準10) 継続して、問題なく実施できている。

学校関係者評価委員コメント 適切に行われている。

- ・中学生対象の職場体験は実施できている。サロンと学校との協力体制は構築されている。

今後の改善方法

- ・ナガコレのようなイベントを松本でも実施したい。

2. 重点目標について (別紙1 参照)

(1) 令和7年度重点目標実施報告

重点目標① 授業計画に沿った準備・指導・振り返りの改善

- 本時の授業に合わせた「授業準備」を意識して、振り返りからの課題を明確にした解りやすい授業展開を工夫する。
- 「5分前行動」として、早めの取り組みを日常的に意識する。
- ・教師自己評価の結果からも「5分前行動」の評価が低く、引き続き行動変容が求められる課題である。
- ・教師間の連携については、職員の人員に限られる現状で意思疎通が保たれている。

重点目標② 教師・講師・学生会との連携強化

- 嘱託講師との連携を強化して、低位生への手立てを工夫する。
- 嘱託講師の授業内容、授業計画を把握して、自らも学ぶ姿勢で関わっていく。
- 学生会やルーム長を活用した、当事者意識を喚起する授業姿勢の改善
- ・座学の授業に対する興味関心が低く、1学期期末試験の結果として2割前後が再試験対象者となっている。
- ・職業訓練の場としての美容学校という意識が高まることなく、依然として高校生の意識を変えられず問題行動に繋がっている。学校行事や実習授業において仲間と協力し合える習慣を定着させていく。
- ・合同打ち合わせ会において、学年ごとの情報共有が保たれ課題を共有されている。

重点目標③ 教師と学生との距離感を意識する

- 「名字」での呼名を職員間で統一する。馴れ合いにならない節度を意識した言動によって、整然としたクラス運営生活習慣を整える。
- 学年主任を中心として、生徒の現状把握を共有したチームティーチングを意識すると共に、学生自身の当事者意識を促すコーチングを実践する。
- ・学生と先生との「距離感」の把握には、依然として教師間での統一は難しい現状である。学年主任を中心として、クラスを超えた情報共有を意識していく。
- ・教務会の充実を図る。
- ・松本校全体の風土として、学生との距離感の近さが強みとしても認められている現状もある。引き続き、強みとしていくためにも意識的に距離感を保つ「けじめ」のある対応が必要である。学生との距離感については、今後も課題として取り組んでいく。

学校関係者評価委員コメント

- ・重点目標に対して、考え・方策が変化していることが大事である。

今後の改善方策

- ・昨年度より質の高い学校となるよう、全職員が共通意識のもと、1つ1つを大切に考え、具体的方策を協議しながらすすめていく。
- ・自己評価をすることの大切さを感じている。今後の目標設定をする良い機会となっている。

(2) 令和8年度実施目標（別紙2参照）

重点目標① 意識を前に向けて、5分前行動の実践

- 授業準備の時間を明確にして、5分前行動によって得られる余裕を学生指導に活かす。
- クラスの垣根を超えた、学年主任を中心としたチームティーチングを意識して課題を共有する。

重点目標② 嘱託講師、外部講師との連携強化

- 欠席者の補習内容を把握する。（補講計画に沿って、個別の欠席対応を明確にする）
- 嘱託講師、外部講師との連携により学生状況を把握する。
- 学生会やルーム長を活用して、当事者意識を喚起する授業姿勢の改善

重点目標③ 教師と学生との距離感を意識する

- 「名字」での呼名を職員間で統一する。馴れ合いにならない節度を意識した言動によって、整然としたクラス運営・生活習慣を整える。
- クラス指導と個別指導の使い分けを工夫して、学生が前を向ける指導を心がける。

学校関係者評価委員コメント 五味委員より

- ・理美容業界・ディーラー・学校が上手く、協力し合い稼働していきたい。時代に合わせた教育。みんなで考え、実行していくしかない。

学校関係者評価委員コメント 竹松委員より

- ・継続していくことが大切である。地元サロンの協力体制がある学校。大きな特色になるのでは。

今後の改善方策

- ・昨年度より質の高い学校となるよう、全職員が共通意識のもと、1つ1つを大切に考え、具体的方策を協議しながらすすめていく。
- ・お客様に寄り添う事のできる人間力の高い人材育成に力を入れていく。

最終まとめ

- ・やるべきことを一つずつ丁寧に頑張っていってほしい。協力は惜しまない。